

一般社団法人 社会福祉経営全国会議

コロナ・実態・事例ニュース



2021年10月1日発行 (No.14) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902

電話 06-6772-1360 Fax06-6772-1376 Eメール/jimukyoku1@f-zenkoku.net

コロナによる現場の実態・事例を緊急募集！

さっそくお寄せいただいた声をご紹介します！

●「コロナ感染爆発！今、福祉の現場で何が起きているのか！事例募集中！」

書き込みフォーム

<https://forms.gle/M44xvT4iMxVHujzDA>



・コロナ禍において利用者である子どもへの感染を防ぐことはもちろんしなくてはならないが、子どもたちが密にならずに過ごすことはなかなか出来るものではない。特に学校での生活においても友だちや先生とのスキンシップを避けるように言われているせいか、以前よりも学童クラブの職員に甘えスキンシップを求める子どもたちが増えているように思う。自設は利用者の人数が定員に満たない施設だが同じ建物に市の直営の児童館も入っておりいつもクラスターが発生しないよう恐れ、緊張を感じながら運営をしている。国をはじめ行政がなんの手立てもしない、しても遅い。感染予防と万が一の対応を現場の努力でしている状況ではないかと感じている。このような状況に置かれている職員には常に感染のリスクがあるが危険手当のようなものを出したくてもない。・学童クラブの支援員の給与が(処遇改善も充分でなく)まだまだ低いため、若手職員が将来の生活、家庭を持ちこの仕事を続けていくことなどに不安を口にしている。学童クラブの支援員の認知度がまだ低い。将来の人材確保にも影響することであると心配している。・今後の国や市の財政状況によっては委託費(運営費)がどうなるか。これまで市が社福に委託してきたことそのものが見直され指定管理制度の導入がされるかもしれないという懸念もある。これまで子どもやその家庭、地域の福祉を担ってきた法人としてその継続的な経営の意義をどのように訴えていくか考えなくてはならないと思っている。(東京・学童)

8月末に在園児に感染者が出たため、現在の配置基準の中で厳しい中ではあるが、各クラス単位の保育を保障し、保育の中でも消毒作業を行っているが、保育士も疲弊している。感染者が出たこと自体は仕方ないことだと思うが、保護者からの意見や苦情に近いものも含め、保育者が受けないといけないう状況がとて大変だった。(大阪・保育園)

アルバイト保育士の家族の現業職場(重労働)で、ワクチン接種後の死亡者が間隔を置いて複数名出たそうです。30代から40代の男性で、その人たちの周辺ではワクチン忌避感が強いようです。これらケースはすべてワクチンとの因果関係はない、とされているそうです。こういった情報をどのように考えたらいいのでしょうか。接種後の安静が保障されない職域接種の危険性なのか、ワクチンやコロナウイルスについての隠された問題点があるとみるべきなのか。ワクチンに関する正しい情報開示が強く求められます。(大阪・保育園)

名古屋市では公費で行っている高齢職場のPCR検査を9月で打ち切る方針です。私たちは安心して働くために10月からも続けて受けさせてほしいと思っています。先日もデイサービスに勤務している看護師さんが自分の体調に不安を感じ、勤務していいのかととても迷っていました。特に症状もなかったため、すぐにこの検査を受け陰性が確認され安心して勤務できたということがありました。(愛知・高齢)



先日微熱が出た際、その他の症状がなかったため、受診に悩むことができました。しかし、そのまま出勤するのは不安だったため、上司に相談、週内に予定されていた公費でのPCR検査をすぐに受けさせていただきました。結果が出るまでは落ち着きませんが、検査を受けてから出勤できる安堵感も大きく、今後も定期的にPCR検査を受けられる環境が継続されていくことを望んでいます。(デイサービス勤務・看護師より)

マスクができない子どもたちへの感染、家庭内感染が広がらないか不安です。大人からの感染を防げるように、ずっと園でできる限りのことは対策をしていますが、保育園では集団生活、密を防ぐことは不可能な状況の中で、職員みんなで精一杯頑張っていますが、疲労感も高まっています。いつまで続くのか…。(大阪・保育園)